

# 制度に縛られない 自然な住まいのあり方を

サポートハウス和<sup>なごみ</sup> ●神奈川県平塚市 社会福祉法人いきいき福祉会

高齢者の住まいには、これまで紹介してきた高専賃だけでなく、有料老人ホームやケアハウスなど様々な形態が制度上で定められています。でも大切なのは、運営主体が目指す理念。神奈川県平塚市にある「サポートハウス和」は、制度のどれにもあてはまりませんが、「当たり前の住まいづくり」を目指して取り組んでいます。

(編集部)



## 企業の独身寮を活用 ケアはつかない形

東海道線平塚駅から車で約10分。スーパーやコンビニ、レンタルビデオ店があり、夕方近くになるとスーパーに買い物に訪れる人々が行き交う。都市近郊のどこにでもある住宅街の風景で、生活の香りが漂う町並みだ。一つ通りを入ると、これも街中のどこでも見られるような2階建てアパートが姿を現す。いきいき福祉会が管理運営する「サポートハウス和<sup>なごみ</sup>」。企業の独身寮を借り上げ、おもに高齢者を対象に貸し出している。

サポートハウス和は、2010年5月現在で築17年。間取りは、1部屋あたり6畳1Kが10室。全室、浴室、トイレ、キッチンが完備。1階には入居者が自由に活用できるコミュニティスペースがあり、洗濯室と訪問介護事業所「地域介護サービスセンター ラポール平塚」が隣接している。特定

施設にあたるケア付き住宅という形態はとっておらず、1階の訪問介護も入居者だけを対象としたものではない。入居者には当然の権利として、法人以外のヘルパーやケアマネも自由に選んでもらっているという。

一方で、1階にある事業所には24時間ラポールのスタッフが常駐。夜間等の緊急コールに対応し、困りごとの相談にもなる。朝晩は各戸に声をかけつつ安否確認も行う。いきいき福祉会・ラポールグループの総合相談室で管理者を務める本間めぐみさんは、こう説明する。

「隣近所の人々が毎朝、おはようございますと声をかけ、玄関先で相談にのるといって、一般のコミュニティの情景とまったく同じです。人恋しくなった人が1階の訪問介護事業所に上がってスタッフとお茶を飲むこともあります。これもご近所にお茶を飲みに行くという感覚なのでしょうね。現代の長屋的風景というか」

サポートハウス和には、隣に建つマンションの1階3室を法人が借りて転貸するマンションタイプもある。ルームシェアをすることも可能で、気のあう仲間同士はもちろん、初対面でもお互いが納得すれば一緒に住める。



アパートタイプ(写真左端)に住む富山亮一さん。前腕固定杖での歩行だが、2階までの階段も時間をかけて昇降している